

KUNST ARZT では、昨年に引き続き5度目となる  
清水紗希の個展を開催します。

清水紗希は、針金で町並みを描くように形作るアーティストです。  
鑑賞者の視点によっては、照明で銀色に輝くこともあれば、  
「町」の影だけが見えることもあります。

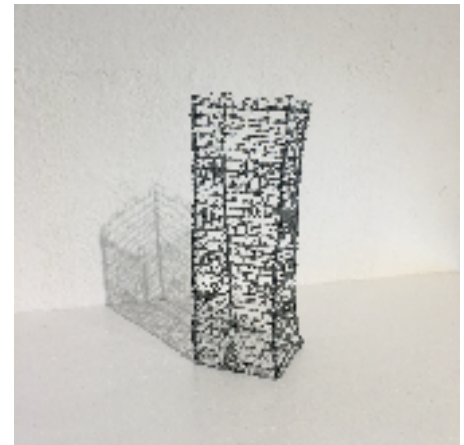
それら無人の「町」が見せる陰陽の様は、シンプルな表現だから  
こそ、淡々と流れる日々の無常観や、そこに住んでいるであろう  
人々を想像させます。

本展では、『作りたいと思う光景であったり、今起こっていること  
を自分の視点に引き寄せるという感覚を「糸をたぐる、引き寄せる」  
という意味の reel という単語に込め』（作家の言葉）、ライフワー  
ク的に2016年から開始し、100作品を超えているA4サイズの区  
画の「町」に、新たなスポットが加わります。

彼女の脳内タウンを散策しに来てください。

(KUNST ARZT 岡本光博)

\* ニュイブランシュ KYOTO2022 参加展覧会



「塔」  
2020  
針金#30

#### 経歴

- 1992 石川県金沢市に生まれる
- 2015 京都嵯峨芸術大学（現・嵯峨美術大学）芸術学部 デザイン学科 イラストレーション領域 卒業
- 2017 京都嵯峨芸術大学（現・嵯峨美術大学）大学院 芸術研究科 デザイン専攻 修了

#### 個展

- 2016 「わたしが いる。あなたが いる。」(KUNST ARZT/ 京都)
- 2017 「Sampo」(ガレリア画廊/ 石川)
- 2018 「expand」(KUNST ARZT/ 京都)
- 2019 「boundary」(KUNST ARZT/ 京都)
- 2021 「note」(KUNST ARZT/ 京都)

#### グループ展など

- 2017 「寛容な線たち - 創生する形象 -」(ギャラリー睦/ 千葉)
- 2018 2人展「拓く人」(cumono gallery/ 京都)
- 2018 3人展「記憶をめぐる：a piacere」(禁酒会館ギャラリー/ 岡山)
- 2019 「第2回 アートハウスおやべ現代造形展」(アートハウスおやべ/ 富山)
- 2019 「第5回 宮本三郎記念 デッサン大賞展 - 明日の表現を拓く -」(小松市立宮本三郎美術館/ 石川)
- 2020 「Landscape-Heartscape 2020」(Gallery Blau Katze/ 大阪)

#### 受賞歴

- 2013 第2回 東京装画賞 2013 学生部門 銀の本賞 受賞
- 2013 第23回 京都広告賞 新聞広告部門 佳作 受賞
- 2016 日本ブックデザイン賞 2016 入選
- 2017 第45回 京都嵯峨芸術大学+ 大学院制作展 大覚寺賞、卒業生特別賞 受賞

2022年9月27日(火) から10月2日(日)

12:00 から 18:00

\*10月1日(土)は「ニュイブランシュ KYOTO2022」参加の為に21:00までオープン

会 場 : KUNST ARZT

605-0033 京都市東山区夷町 155-7 2F

問い合わせ



KUNST ARZT 代表 岡本光博

090-9697-3786

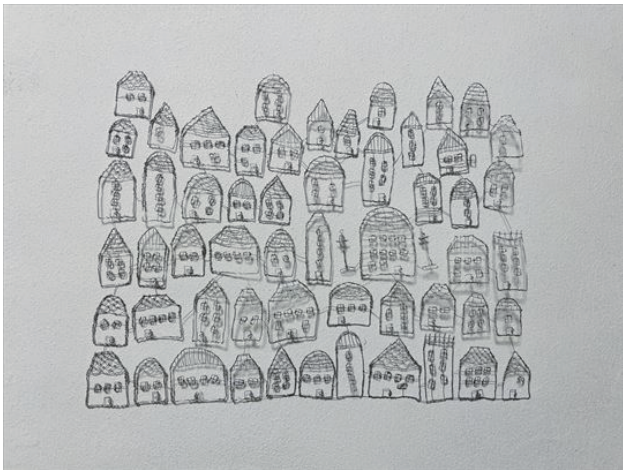
kunstarzt@gmail.com

## アーティスト・ステートメント

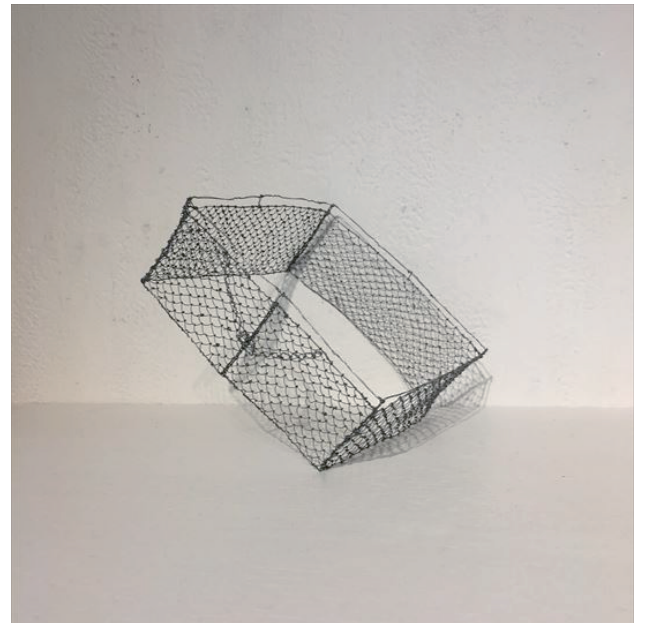
針金で街の風景を描いている。  
モチーフとなる街にここといった明確な場所はないが、誰しもがいつだったかどこかで見たような、行ったことがあるような、そんな気がする街だ。街に人はおらず、建物が建ち並ぶ風景が続く。私の視線と鑑賞者の視線、鑑賞者どうしの視線が、無人の街の中で交差するとき、街の音や温度、においなど描かれていないはずのものたちがたちあがって見えてくる。また、人がいないからこそ、普段、私たちが生活している中で当たり前が存在しているものや人、自分自身の存在について強く認識するものではないかと思う。

## 今回の個展について

ふと思い出す風景。一枚一枚それを描き続け街が広がってきた。  
そこに存在する人そのものにはなれないけれど、描くことでその人や場所に少し近づいたような気持ちになる。  
針金で描くことは自分をその"場"やそこで起こっている"物事"に引き寄せる方法だ。



「no.115」 2022 針金#30



「in/out 03」 2020 針金#30

